

Let's Try!

1

指導編

Let's Try!

1



学校

年

組

名前

文部科学

文部科学省

ダウンロードしたファイルをホームページ上に転載するなどして不特定多数が閲覧できるようにすることや許可なく出版物等に転載すること、営利目的で利用することを禁止いたします。

Unit 1 4

Hello!

あいさつをして友だちになろう

Hello. / Hi. / I'm (Hinata). / Goodbye. / See you.

Unit 2 8

How are you?

ごきげんいかが？

How are you? / I'm (happy).

Unit 3 12

How many?

数えてあそぼう

How many (apples)? / (Ten) (apples). / Yes. / That's right. / No. / Sorry.

Unit 4 16

I like blue.

好きなものをつたえよう

I like (blue). / Do you like (blue)? / Yes, I do. / No, I don't. / I don't like (blue).

Unit 5 20

What do you like?

何が好き？

What do you like? / I like (tennis). / What (sport) do you like? / I like (soccer).

Unit 6 24

ALPHABET

アルファベットとなかよし

(The "A" card), please. / Here you are. / Thank you. / You're welcome.

Unit 7 28

This is for you.

カードをおくろう

What do you want? / (A star), please. / Here you are. / This is for you. / Thank you. / You're welcome.

Unit 8 32

What's this?

これなあに？

What's this? / Hint, please. / It's (a fruit). / It's (green). / It's (a melon). / That's right.

Unit 9 36

Who are you?

きみはだれ？

Are you (a dog)? / Yes, I am. / No, I'm not. / Who are you? / I'm (a dog). / Who am I? / Hint, please.

本書の使い方

学習指導要領で示された、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力の三つの柱に沿った各単元の目標と、関連する主な言語材料を記しています。下線は、新出の表現を示しています。

Let's Try! ①の誌面です。児童が実際に書き込んだり、これをもとに活動を行ったりします。

7 This is for you.
カードをぬくろう

単元目標 (5 時間)

- 日本語と英語の音声の違いに気づき、形の言い方や、欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- 欲しいものを尋ねたり答えたりして伝え合う。
- 相手に伝わるように工夫しながら、自分の作品を紹介しようとする。

言語材料

○What do you want? (A star), please. Here you are. This is for you. Thank you. You're welcome.

○want, this, a, for, 状態・気持ち (big, small), 形 (square, rectangle, star, diamond), bus, flower, shop, balloon, house, car, candy, 動物 (dog, cat, panda, mouse, bear)

[既出] I like (blue). Do you like (blue)? Yes, I do. / No, I don't. I don't like (blue). What (sport) do you like? How many (apples)? 形、数 (1 ~ 30), tree

このUnitで学習すること

いろいろな形を集めて作ったカードを作る。

児童は、これまでの単元を通して、色や数、果物・野菜、身の回りの物などの語とともに、挨拶や好みを伝える表現に慣れ親しんできている。本単元では、まず、さまざまな形を表す語や何が好きかを尋ねたり答えたりする表現に出会う。次いで、それらの語や表現を使いながら誰かに贈るためのカードを作り、紹介し合う。特に、相手意識・目的意識を大切にしたい単元である。

単元の最終活動に向けて、第1時には、形を表す語に出会うとともに日本語と英語の音声の違いに気づき、デジタル教材により世界のさまざまなカードについて知る。第2時と

Unit 7 This is for you.

26

27

28

29

30

31

各単元の特徴やねらい、指導上の留意点を解説しています。単元に入る前に読むことで、その学習内容の全体像を理解することができます。

各活動のねらいや内容、指導上の留意点について記載しています。授業の準備などに活用ください。

単元には、Let's Listen / Watch and Think / Play / Chant / Sing, Activityが設定されています。それらは主に、児童に言語や文化についての気づきを促したり、設定された言語材料の意味を推測したり慣れ親しんだりすることをねらいとしています。Activityは、既習表現などを使って、児童が友達とコミュニケーションを図ることをねらいとしています。なお、ここで扱われているワークシートは、全て文部科学省ホームページに掲載されています。

Let's Watch and Think

デジタル教材を視聴し、世界にはさまざまなグリーティングカードがあることを知る。

映像を視聴することにより、さまざまな国には、それぞれの文化や習慣があることに気付かせたい。ただカードを紹介するのではなく、そのカードが使われる場面や状況、それがもつ意味などについても児童の気づきを促すようにする。体裁や状況が違っても、どのカードも「相手のことを思って、自分の心を伝えるためのものである」ことに児童が気付くことで、最終活動が豊かになる。指導者は、そうしたねらいを明確にもち、映像を見せたい。

Let's Listen

欲しい形をやり取りする音声の聞き、誰がどの作品を作ったのかを覚えておく。

会話の中では、最終活動Activityで使用するWhat do you want?, please, How many?などの表現が何度も繰り返され、使われており、音声を聞きながら表現に慣れ親しむことが期待できる。

音声の聞きかたは、どの作品にも、どんな形がいくつ必要かなどについて児童に考えさせ、集中して主体的に聞けるような工夫をしよう。

途中で音声を止めながら線を結ばせたり、全ての音声を聞き終わってから線を結ばせたり、さまざまな方法が考えられるが、児童の様子をよく観察し、実態に合わせた活動方法を選択したい。

Activity

いろいろな色や形の紙を集め、プレゼントするグリーティングカードを作る。

まず、指導者がモデルを示したい。ALTや校内の教員等に自分の気持ちを伝えるためのカードを作り、それを児童に見せ、意欲付けを図りたい。

まず、誰にどんな気持ちを伝えたいかを児童に考えさせる。対象を友達に限定する場合、学級の中で、さみしい思いをする

Unit 7

28

29

30

31

付属のデジタル教材に収録されている音声のワークシートを記しています。主として、Let's Listen / Watch and Think / Chant / Singです。

各単元で指導者が使える表現例です。活動に合わせて使ってみましょう。記載されているQRコードを読み込むことで、音声を聞くこともできます。

注 意 点

該当のページに入りきらなかった解説を、やむを得ず別のページに掲載する場合には、授業中に使用する際の視認性を高めるため、通常の赤い見出しに対して、黒い見出しで掲載しています。

ダウンロードしたファイルをホームページ上に転載するなどして不特定多数が閲覧できるようにすることや許可なく出版物等に転載すること、営利目的で利用することを禁止いたします。

1 Hello! あいさつをして友だちになろう

単元目標（2時間）

- ・世界にはさまざまな言語があることに気付くとともに、挨拶や名前の言い方に慣れ親しむ。
- ・名前を言って挨拶をし合う。
- ・相手に伝わるように工夫しながら、名前を言って挨拶を交わそうとする。

言語材料

- Hello. Hi. I'm (Hinata).
Goodbye. See you.
- 挨拶 (hello, hi, goodbye, see you), friend, I, am

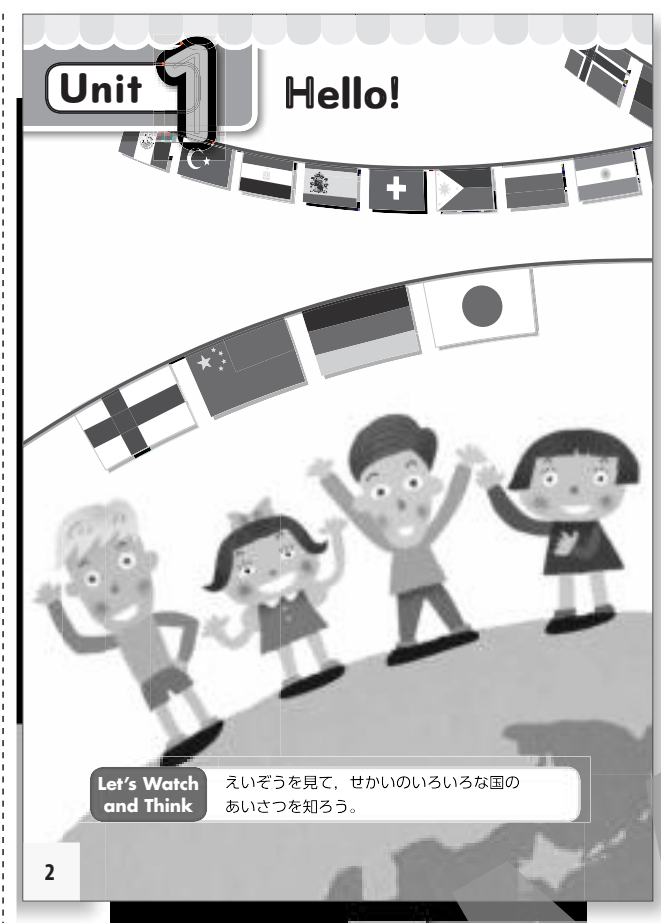
このUnitで学習すること

世界の挨拶を知り、名前を伝え合う。

3年生といえば、低学年にはなかった理科や社会科の学習が始まり、習字やリコーダー演奏など新しい活動も増え、新たな気持ちで学習に取り組める時期でもある。とりわけ、母語以外の言葉と初めて出会う「外国語活動」の時間は、好奇心旺盛な3年生の児童にとって、たいへん興味深く心躍るものであろう。特に、小学校外国語教育のスタートとなる本単元は、今後の活動を大きく左右する重要な意味をもつ。「外国語」との初めての出会いを、児童にとって楽しく、心に残る印象的なものにしたい。

児童は、まず、映像を通して世界のさまざまな国の様子や言語に触れる。3年生という発達段階を考えると、自分たちを取り巻く世界がまだまだ身近な地域にとどまる傾向にある。そこで、活動を通して、世界にはたくさんの国があり、さまざまな人がいてそれぞれの生活を営んでいることに体験的に気付かせ、自分たちも同じ地球に住む一員であることを感じ取らせたい。また、英語が多く の国で話されていることやその有用性に気付くことにより、今後の外国語活動への意欲が高まることも期待したい。

本単元では、挨拶をして自分の名前を伝え



スクリプト

Let's Watch and Think

- ① Finland フィンランド：Terve. (テルヴェ)
- ② China 中国：你好。(ニーハオ)
- ③ Germany ドイツ：Guten Tag. (グーデンターク)
- ④ Japan 日本：こんにちは。
- ⑤ Kenya ケニア：Jambo. (ジャンボ)
- ⑥ India インド：नमस्ते । (ナマステ)
- ⑦ Korea 韓国：안녕하세요. (アンニョンハセヨ)
- ⑧ America アメリカ：Hello.
- ⑨ Australia オーストラリア：Hello.

Let's Chant : Hello!

Hello, (hello,) hello, I'm Emily.
Hi, (hi,) hi, I'm Takeru.
Let's, let's, let's be friends!



●小学校中学年における外国語活動の指導のポイント

平成20年度告示の学習指導要領において、それまでの総合的な学習の時間に実施されていたいわゆる英語活動の成果と課題を踏まえ、外国語活動が高学年に年間35時数程度、導入されることになった。21年度からの移行期を経て、23年度より学習指導要領が全面実施となり、小学校の学級担任が中心となって、ALT等の外部人材も活用しながら、各校で外国語活動に取り組んできた。

そして、平成29年3月告示の新学習指導要領において、その外国語活動の成果と課題を踏まえ、グローバル化に対応した英語教育改革の一環として、中学年に外国語活動が導入された。

これまでの外国語活動と趣旨が大きく変わるわけではなく、新学習指導要領に示されたとおり、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力の育成が目標である。「聞くこと」「話すこと（やり取り）」「話すこと（発表）」の三領域における言語活動を通して、その目標を達成しようというものである。

(続きは7ページへ)

合うことが主な活動となる。活動を通して、一人一人にはさまざまな思いを込めて付けられた名前があり、互いがかけがえのない大切な存在であることを感じ取らせたい。さらには、人と関わり、挨拶を交わすことの楽しさも実感させ、学級のよりよい仲間づくりにつなげたい。

Let's Watch and Think

世界のいろいろな国の挨拶を聞く。

- ★ 自分を取り巻く世界の認識が身近な地域にとどまる3年生の発達段階を考えると、海外の国や地域、その文化などについて具体的なイメージをもつことは難しいと考えられる。デジタル教材などを活用して体験的に出会うことにより、外国の言語や文化に興味・関心をもつきっかけとしたい。
- ★ 世界の挨拶を音声で聞かせ、世界にはさまざまな言語があることに気付かせる。どのような挨拶か、児童に実際に聞こえた通りに言わせてみるとよい。それぞれに聞こえ方が違うことも、児童には興味深いと思われる。
- ★ 映像に映る各国の特徴的な風景や生活の様子などと日本との違いや共通点を考えさせるとよい。世界にはたくさんの国があり、さまざまな人がいて、それぞれの生活を営んでいることを知るとともに、自分たちも同じ地球に住む一員であることを感じ取らせたい。
- ★ インターネットなどを活用して、さまざまな国の様子を見せて関心をもたせることも考えられる。

Let's Chant : Hello!

- ★ 児童とともに挨拶などのジェスチャーを考えるなどして、楽しく表現に慣れ親しませたい。慣れてきたら、ペアで活動させたり自分たちの名前に置き換えて言わせたりして、意欲を高めたい。

ダウンロードしたファイルをホームページ上に転載するなどして不特定多数が閲覧できるようにすることや許可なく出版物等に転載すること、営利目的で利用することを禁止いたします。

Let's Listen

音声を聞き、国旗と世界の子供たちとを線で結ぶ。

- ★ 登場人物が自国の言語と英語で挨拶する音声を聞き、どの国かを考えさせる活動。前時に視聴しているため、人物を見てあらかじめ予想させる。それを確かめるために、さらに音声を聞く必然性が高まり、児童も集中して聞くであろう。
- ★ 外国の人名は聞き慣れない音だと思われるので、ここでは、正確に聞き取ることをねらってはいない。自分の名前を言う表現を知るとともに、一人一人がさまざまな思いを込めて付けられた名前をもっている大切な存在であると感じさせたい。

Activity

ペアになって挨拶し、名前を言い合う。

- ★ 指導者や友達と実際に挨拶を交わし、名前を言い合う活動。ふだん共に生活している仲間であるが、英語で挨拶をしたり自分の名前を言ったりすることで、児童にとっては新鮮な経験となるであろう。人と関わり、コミュニケーションを図ることの楽しさを改めて実感させる機会としたい。
- ★ 児童の実態に応じて、自分の名前やイラストなどを書いた名刺サイズのカードなどを作成し、挨拶の際に交換させることも考えられる。

指導者の表現例

Let's start our English class.
(英語の授業を始めましょう。)
That's all for today.
(今日の授業はこれで終わります。)
Stand up, please.
(立ちましょう。)
Sit down, please.
(座りましょう。)
Good morning, everyone.
(皆さん、おはようございます。)
See you [next time / next week].
(また [次回 / 来週] 会いましょう。)

Let's Listen あいさつを聞いて、子どもと国旗を線でむすぼう。

4

スクリプト

Let's Listen

- Hello. I'm Olivia. I'm from America.
- Jambo. Hello. I'm Jomo. I'm from Kenya.
- 안녕하세요. (アンニョンハセヨ) Hello. I'm To-yun. I'm from Korea.
- नमस्ते । (ナマステ) Hello. I'm Anita. I'm from India.
- Guten Tag. Hello. I'm Leon. I'm from Germany.
- 你好。(ニーハオ) I'm Shin-han. I'm from China.

授業の開始や終了などで使う表現例を紹介しています。



Unit 1 Activity あいさつをして、名前を言い合おう。

●あいさつをした友だちに名前を書いてもらおう。

5

(5ページの続き)

ただ、高学年の外国語活動の趣旨と大きく変わるものではないとはいえ、やはり学習者が中学年であることから、扱う題材や活動は児童の実態に合わせたものにすることが必要である。

ところで、このコラムでは、中学年外国語活動の指導のポイントを、活動、指導者が使う英語表現に絞って記すことにするが、その多くは高学年外国語科の指導のポイントに通じるとと思われる。

- ★ 扱う語彙や表現が聞いたり話したりされる必然性のある場面を設定する

児童が新しく出会う語彙や表現の意味を安易に日本語で与えるのではなく、それらが使われる必然性のある場面の中で、それらが使われる様子を繰り返し見たり聞いたりすることで、児童に、それらの意味を推測させるようにする。そこで、本教材では、Let's Watch and Thinkという活動を各単元に設定し、映像資料の視聴を通して、児童が推測し、思考を働かせることをねらいとしている。

また、この活動を参考に、学級の実態により応じた場面設定をすることも大切である。

- ★ 言葉を使うことで慣れ親しませる

子供の言語の獲得については、「言語使用を通して言語獲得」と言われる。言語の規則を明示的に教わり、その規則を運用できるように訓練をする方法もあるが、児童期にはそれはあまり向いていないように思われる。そこで、聞く機会をたくさん与え、先述したように推測させ、言葉を果敢に使わせる機会を与えて、指導者や友達とやり取りをさせることが大切である。

このことは、新学習指導要領においても「実際に英語を用いた言語活動を通して、次の事項を体験的に身に付けることができるように指導する。」と記載されていることと一致する。

また、言語活動の際には、コミュニケーションを図る目的意識、相手意識をもたせることが大切であることは言うまでもない。

- ★ 指導者は、英語を使おうとするモデルになる

授業で、児童ができるだけ英語を使った言語活動を行うためには、指導者も積極的に英語を使いたいものである。また、外国語活動においては、指導者は何より英語を使おうとするモデルでもある。指導者が英語が苦手だからと距離を置くと、児童も距離を置いてしまうかもしれない。「先生は、デジタル教材のような発音ではないけれど、ALTの先生のようにすらすらと英語を話さないけれど、英語から逃げていないよ、何とかして自分の思いや考えを伝えるよ」という英語を使おうとする心強い指導者をモデルに、児童も「よし、やってみよう」と思うのではないだろうか。

- ★ 指導者が英語を使う際の留意点

指導者が英語を使う際には、ジェスチャーを付け、顔や声の表情の豊かさを心掛けたい。これらは、児童にとっては、不慣れた英語を理解する大きな手助けとなるからである。また、具体物や半具体物なども使いながら繰り返すことも大切である。

ダウンロードしたファイルをホームページ上に転載するなどして不特定多数が閲覧できるようにすることや許可なく出版物等に転載すること、営利目的で利用することを禁止いたします。